

日月会 活動支援金プログラム

日月会では、皆様からお預かりしている運営資金により、新型コロナウイルス感染拡大時における、学生の学修支援プログラムとして学修給付券の配布などを行ってまいりました。また、コロナ禍の状況を考慮し、会費の徴収を見送るなどしてまいりましたが、今後の支援活動ならびに日月会の継続的な活動を維持していくために財政的な策を考えていく必要がございます。そのために、日月会では支援金プログラムを実施し、みなさまからの募金をお願いする次第でございます。ホームページよりご支援のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 1.募金の名称：日月会 活動支援募金
- 2.募金の目的及び用途：建築学科の学部生、大学院生の学

びを支え、同学科卒業生の活動や交流を支える日月会の活動支援を目的とし、運用いたします。

- 3.募集の対象：趣旨に賛同いただける方
- 4.募集の期間：随時
- 5.募集の金額：一口 1万円、3万円、5万円、10万円のいずれか
- 6.申込及び納入の方法：日月会ホームページの日月会支援募金申込ページより、フォームに必要事項をご記入の上、お申し込みください。日月会からの返信メール内に記載された納入方法(クレジットカード決済or銀行振込)に従って、募金の納入をお願い致します。

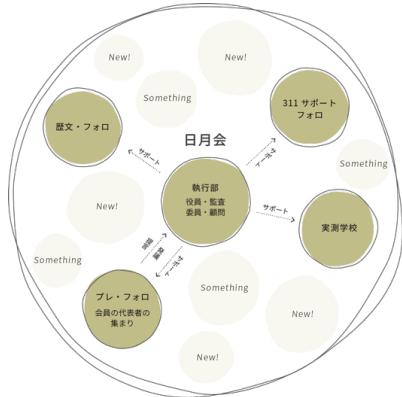
建築学科のいまと、日月会のこれから

この数年のあいだ、日月会においても様々な試行錯誤を繰り返してきました。日月会会員と現役学生との最大の接点でもある「日月会建築賞」を継続し、建築研究室との共催による「長尾重武賞」の開催、本誌「Forma-Foro」の発行を続けてきましたが、若干ページ数が減ったものの、今年も無事に本誌を皆さんにお届けできることを嬉しく思います。建築学科では、日月会会員でもある(つまり武蔵美建築の卒業生でもある)鈴木先生が今年度末で退官を控え、新たに同窓である小松先生、大島先生がスタジオを開設されました。そこで、本号では、常に変化を続ける建築学科のいまを皆様にお伝えしたいと考え、10のスタジオをご紹介しますこととなりました。ちなみに表紙は、建築学科のある鷹の台キャンパス8号館の踊り場の緑の壁です。毎日、この壁を見ながら建築学科へ通ったことを思い出す方も多いと思います、変わらない部分の象徴として表紙としました。

さて、前号のForma-Foro Vol.21で「日月会の組織デザインを考える」と題して、日月会執行部が自ら目指す変化についてお伝えしました。広場を意味する「フォロ」、それが日月会の様々な大小の活動の集合体となる大きな広場となるよう、執行部の組織のかたちも含めてリ・デザインし、より活発な同窓会空間へと育てていきたいというものです。

小津誠一 Kozu Seiichi
日月会会長 [23期]

私を含めて現執行部は、本来の任期を複数年にわたり延長して執行部を運営しています。新たな執行部メンバー候補者を交えながら組織改編や更新に取り組み始めていますが、これらの環境を整えた上で、新たな執行部体制へと引き継いでいきたいと考えています。新たな参加メンバー、フォロ活動企画を募集していますので、ご興味ある方は、日月会ウェブサイトよりご連絡をいただけると幸いです。皆様には、引き続き日月会へのご支援とご参加をいただけますよう、よろしく申し上げます。



[日月会ウェブサイト]
<https://nichigetsukai.com/>
日月会の様々な活動を発信しています。フォルマ・フォロのバックナンバーも公開中です。



[日月会活動支援募金申込ページ]
<https://nichigetsukai.com/contact/donation-support/>
日月会の活動を支援するための募金を受け付けております。

[校友会合同展のお知らせ]
「ムサビズム展——武蔵野美術大学校友会関東圏合同展」
期間：2024年4月10日(水)–4月16日(火)
会場：東京都美術館

[表紙写真]
武蔵野美術大学 8号館
photo:田宮晃志

[編集後記]
今回は、現在研究室におられる先生方を紹介する号となりました。私が在学中には、構造や設備のスタジオはなく、この10年ほどでの変化の大きさを改めて感じます。誌面編集にあたりご協力いただいた先生方、研究室の皆様にお礼を申し上げます。[星野]

編集：星野千絵
デザイン：小田権史
印刷：株式会社山田写真製版所
発行：武蔵野美術大学建築学科
同窓会・日月会
<http://www.nichigetsukai.com>
東京都小平市小川町1-736
武蔵野美術大学建築学科研究室内

Forma-Foro

22 フォルマ・フォロ | 武蔵野美術大学建築学科・日月会
Dec.2023 | VOL.22

巻頭寄稿
「ル・コルビュジエの身体図像」
鈴木 明

建築学科のいま——10のスタジオ



ル・コルビュジエの身体図像

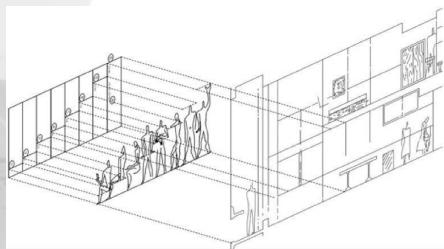
鈴木明 [10期]

2014年武蔵美建築学科に着任、2024年3月末で私は退任、同時に鈴木スタジオ、第10期生を送り出すことになります。

この間、日月会の皆さんにも、たいへんお世話になり、ありがとうございました。退任後も、どうぞよろしくお付き合いくださいませ。

現在、最終講義(2024/2/23、市ヶ谷キャンパス開催)に向けて、著書『ル・コルビュジエの身体図像』(発行:武蔵野美術大学出版局、2023年度武蔵野美術大学出版助成、書店発売は2024年3月中旬予定)の校正が大詰。これは昨年度まとめた学位論文に大幅な加筆を加えたもので、最終講義の柱となる内容です。広く知られたあの片腕をあげた黒い人間「モデュロール身体図」が生まれる過程の秘話、モデュロールの創案に関わった人びとと意外な役割など、ひとつひとつ明らかにしていきます。

みなさま、ぜひご参加くださいませ、お待ちしております。



モデュロール身体図とマルセイユのユニテ・ダビタシオン住戸断面比較(作図:小林嵩大)『ル・コルビュジエの身体図像』(発行:武蔵野美術大学出版局)より

建築学科のいま 10のスタジオ



鈴木 明 (Suzuki Akira) 教授 (工学博士・造形学修士)/1953年 東京生まれ
武蔵野美術大学卒業
武蔵野美術大学大学院修了、博士(工学、東京理科大学)

鈴木スタジオ——「身の丈からかかえる建築、参加する建築、じぶんでつくる建築」

鈴木スタジオでは、身の丈(みのたけ)にはじまるまいと、周囲に構成される空間とモノの配列(しつらい)と架構から、建築を考えることに重きを置きます。



左:ベニヤの家(ベニヤドーム)
右:「つくる図書館をつくる」伊東豊雄と多摩美術大学の実験」(共著)



小西 泰孝 (Konishi Yasutaka) 主任教授
1970年 千葉県生まれ
東北工業大学卒業
日本大学大学院理工学研究科修了

小西スタジオ

「建築をより豊かにする『構造』を考える」

建築と「構造」の融合を高い水準で図り、建築をより美しく、より豊かに、より安全につくることを目指します。



隈研吾、ミクニ伊豆高原(撮影:川澄・小林研二写真事務所)



高橋 晶子 (Takahashi Akiko) 教授
1958年 静岡県生まれ
京都大学卒業
東京工業大学大学院修了

高橋スタジオ

「ことばに訳せないものを、空間というカタチにする」

現在の都市環境と生活行動を見据え、新しい「何か」を切り開く建築の提案を目指すスタジオです。



高知県立坂本龍馬記念館本館・新館(撮影:永石秀彦)(JIA新人賞、JIA25年賞、日本建築学会作品選集)



布施 茂 (Fuse Shigeru) 教授
1960年 千葉県生まれ
武蔵野美術大学卒業

布施スタジオ

「実践的な建築設計によって建築を考える」

論理的な思考と鋭い感性によって、建築の新たな可能性を探求するスタジオです。



VENTINOVE

1964年、造形学部産業デザイン学科に建築デザイン専攻が設置され、1965年造形学部建築学科となりました。半世紀を超えて卒業生を送り出してきた建築学科のいまをお伝えします。



菊地 宏 (Kikuchi Hiroshi) 教授
1972年 東京都生まれ
東京理科大学卒業
東京理科大学大学院修了

菊地スタジオ

「建築の多様さを実践を通じて実感する」

建築には様々な表現方法が存在します。完成形としての多様さだけでなく、そのプロセス、材料、道具などにも存在します。それらを追求するスタジオです。



南洋堂書店改修



持田 正憲 (Mochida Masanori) 教授
1972年 神奈川県生まれ
工学院大学卒業

持田スタジオ

「自然と人間をつなぎ、気持ちのよい空間を考える」

持田スタジオは、建築と環境・設備の融合をテーマに、建築と自然の共存、建築と人間の新しい環境を考えるスタジオです。



ROGIC-ROKI Global Innovation Center-(小堀哲夫、日本建築学会賞(作品)、JIA日本建築大賞、BCS賞)



長谷川 浩己 (Hasegawa Hiroki) 特任教授
1958年 千葉県生まれ
千葉大学卒業
オレゴン大学大学院修了

長谷川スタジオ

「自分という部分から、風景という全体を考える」

「大きいようで小さいようで、つかみどころもなく、しかも日々動き続けている」風景という存在に、いかに関わっていくかを考えていきたいと思っています。



星のや軽井沢



小松 宏誠 (Komatsu Kosei) 特任准教授
1981年 徳島県生まれ
武蔵野美術大学卒業
東京藝術大学大学院修了

小松スタジオ

「建築と美術からつながる場所」

実践的な活動を通し、建築と美術の領域から生まれる総合的表現を追及します。それは、幅広い視点・関係性で、社会における新たな価値・役割を発見する事につながります。



Snowy Air Chandelier (DSA日本空間デザイン賞優秀賞)



永山 祐子 (Nagayama Yuko) 客員教授
1975年 東京生まれ
昭和女子大学生生活科学部生活環境学科卒業

永山スタジオ

「建築は未来を作るお仕事」

必ず皆んなに訪れる未来に関わるのだ、という意識を持って取り組んでもらいたいと思います。課題の中でそんな未来を皆んなで話し合うことができたらと思います。



東急歌舞伎町タワー



大島 芳彦 (Oshima Yoshihiko) 客員教授
1970年 東京生まれ
武蔵野美術大学卒業
Southern California Institute of Architecture

大島スタジオ——「物件を物語へ」

建築は常に人が主役です。さあ、建築を単なる「物件」ではなく一編の「物語」として綴り出しましょう。作者であり主役はあなたです。



moreneki 大東市公民連携北条まちづくりプロジェクト(グッドデザイン賞)